



児童数 1年79名 2年95名 3年100名 4年102名 5年92名 6年83名 計551名

しのぶぐさ

「進んで学ぶ子ども(かしこく)」<知>
「心豊かな子ども(やさしく)」<徳>
「たくましい子ども(たくましく)」<体>

令和6年1月18日(2023年度No. 14)

校長 熊谷 賀久

令和6年がスタートしました！



旧年中は、本校の教育活動にご理解とご協力いただき感謝申し上げます。本年もよろしくお願いします。

さて、今年の干支は辰年です。辰は、動物にあてはめると竜（龍）ですが、竜は十二支の中で唯一想像上の生き物で、権力や隆盛（勢いが盛んなこと）を象徴しています。辰年は、とてもよい気（生命のエネルギー）が流れて、人や草木など、いろいろなものが活発に動き、エネルギーがいっぱいになって大きく成長して、形が整う年だといわれています。竜が天高く登っていくように、子どもたちが元気、やる気、勇気、根気、本気といった気をいっぱいにして、いろいろなことにチャレンジすることで大きく成長する年にしていきたいと思います。

3学期は学年のまとめとなります。子どもたちには丈夫な体を作るとともに、自分の目標を立ててそれに向かって力強く進んでもらいたいと思います。特に、6年生は卒業生になりますので、小学校生活のまとめをしっかりと行い、充実した生活を送ってもらいたいと思います。

そのために、教職員一丸となって、子どもたちが生活や学習などで自分の持っている力を十分に伸ばしていくよう指導していきます。保護者の皆様と協力して、子どもたちのがんばりを認め、励ましていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

入賞おめでとう！

12月22日（金）の第2学期終業式の後、各種コンクールで入賞した子どもたちを表彰しました。今回は作文や書道、絵画でたくさんの表彰がありました。頑張って取り組んだ成果です。入賞おめでとうございます。

【第14回みんゆう新聞感想文コンクール】

入選 3年

【第55回福島県児童作文コンクール】（福島県小学校教育研究会）

佳作 5年
5年

【第36回明るい社会づくり作文コンクール】

福島県知事賞 3年

【小中学生による税に関する書道展】

（公益社団法人 福島法人会）

福島市長賞 6年

優秀賞 6年

【第67回J A 共済福島県小・中学生書道コンクール】

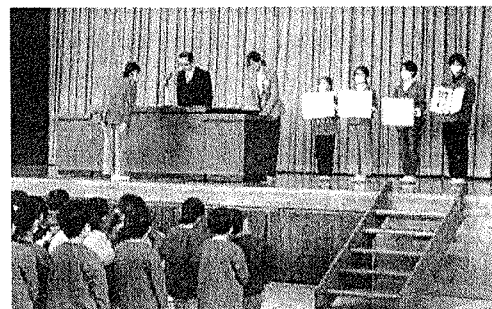
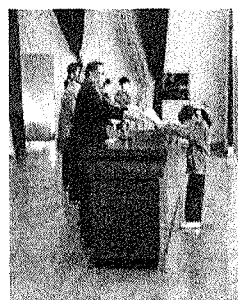
（全国共済農業協同組合連合会 福島県支部）

奨励賞 6年

【第34回ミルキー図画コンクール】（福島県牛乳普及協会）

優良賞 6年

3年



<敬称略>

注）個人情報保護のため児童名は「.」と表記していますので、ご了承ください。

臨時全校集会で、贈呈式とグローブの披露をしました。

1月17日（水）に体育館に全校生を集めて臨時全校集会を行い、次の2つのことを行いましたので紹介します。

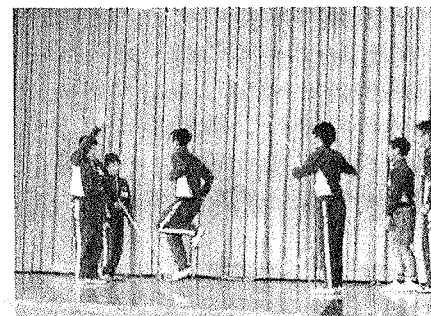
〈ダブルダッチロープの贈呈式〉

鎌田地区青少年健全育成推進会の役員の方々に来ていただき贈呈式を行いました。菅田憲孝会長から「鎌田小学校の子どもたちに元気に運動して体力をつけてもらいたい。」とあいさつをいただき、各学級にダブルダッチロープを寄贈していただきました。

ダブルダッチロープとは、ダブルタッチという2本の縄を使って跳ぶなわとびで使うロープです。テレビなどで見たことがあるかと思いますが、2人の回し手が2本の縄を内側に回し、その中を跳んでいきます。ロープはとても回しやすいので、1本のロープでみんなでなわとびをすることもできます。

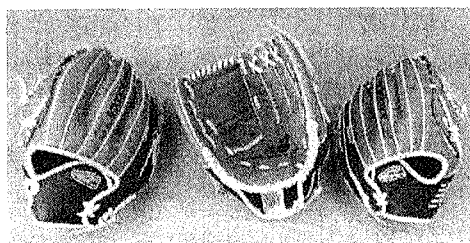
式では、6年生の代表がいただいたロープを使って集団での8の字なわとびとダブルダッチを披露してくれました。素早い動きで連続して跳んだり、ダブルダッチでリズムよく跳んだりして、練習の成果を披露しました。特にダブルタッチを上手に跳ぶと会場は大盛り上がりでした。

各学級でなわとび記録会に向けて練習に取り組んでいるところなので、いただいたダブルダッチロープを使って更に記録に挑戦してもらいたいです。



〈大谷選手からのグローブの披露〉

贈呈式の後には、テレビや新聞などで話題になっているメジャーリーガーの大谷翔平選手から寄贈されたグローブが本校にも届き、子どもたちに披露しました。体育主任の小針先生がグローブを見せると、子どもたちから歓声が上がりました。小針先生から「大谷選手がみんなにグローブを寄贈したのは夢を持って生活してもらいたいというメッセージが込められている」という話がありました。



今後は、6年生から各学級ごと順番に回して、休み時間などに子どもたちが使っていく予定です。グローブを使って、大谷選手の思いを感じ取ってもらいたいと思います。

災害から身を守る！ご家庭で話し合ってみましょう。

テレビや新聞などで連日報道されているように、令和6年1月1日に能登半島を襲った最大震度7の地震、そして津波で甚大な被害がありました。多くの方が避難所などでの不自由な生活を送っています。まだ、余震があり、被害にあった方々は先が見通せない不安な日々を過ごしています。被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げ、早期の復旧を願うところです。

報道を見ていると、13年前の東日本大震災を思い出してしまいます。家の中は物が倒れ、壊れた物が散乱していて、茫然となりました。断水が長く続き、水をもらいに行ったり、食器にサランラップを敷いて洗い物を少なくしたりなど、工夫して生活しました。学校も臨時休校になり、家族で協力して過ごしていました。石川県で被災された方々と同じような不自由な生活でした。

子どもたちは東日本大震災後に生まれたので、報道を見ても実感がないのではないかと思います。だからこそ、子どもたちに震災の教訓を伝えていくことは本当に大切なことです。テレビや新聞などを見ながら、ご家族の方々が経験した震災の記憶をお子さんに話していただき、災害を自分事ととらえ、石川県で被災した方々の気持ちや災害から身を守るためには何をすればよいかなどを話し合ってみてください。